

第4回
令和3年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する
教科用図書採択地区選定委員会

日 時 令和2年7月28日（火）13：30～

場 所 府中市教育センター 第1会議室

出席者 小川美樹会長、小寺和宏副会長、行廣隆宣委員、木谷淳委員、
小野哲生委員、眞田恭行委員、高石元子委員、伊藤弘委員

小川会長：これから、第4回令和3年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書採択地区選定委員会を行います。みなさん、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本日は、第2回、第3回の議事録の確認をしていただき、これまでの協議内容をもとに答申としてまとめていく会となります。17時までに協議を終了するよう予定しておりますので、忌憚のない意見等を出していただけたらと思います。どうぞよろしくをお願いします。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局：引き続きお忙しい中、ありがとうございます。会長の方から、先程説明がありましたように、今日は前回の議事録の確認と、答申内容をまとめることとなっております。答申内容の確認について説明します。

資料確認と合わせて、お願いいたします。まず、左からレジュメ、その下に第2回の議事録、さらにその下に第3回の議事録があります。第3回の議事録については、確認後、本日押印してお帰りください。真ん中の一番上に、みなさんにつけていただいた評価の集計表があります。その下に、調査報告で使用した総括のつづりがございます。そして、一番右側に、答申の綴り（案）がございます。過不足はございませんか。

答申の内容の確認は、主に4点セットでお願いします。左から議事録、評価の集計表、総括と答申です。答申の内容を確認していただく際、議事録と総括との整合性が取れているかという視点で確認をお願いします。

具体的に国語を例にして、説明いたします。まず、答申の7ページを見てください。ページの上の方をご覧ください。こちらには、教科書選定の観点について記載しています。次に、表をご覧ください。本選定委員会の意見として、○（特徴）、◎（最も顕著な特徴）、●（意見）で整理しております。○と◎については、調査員からの報告により記載しました。また、調査報告・質疑応答後に選定委員の皆様で協議していただいたものの中から意見としてまとめたものを●として示しています。8ページのピンクの付箋をご覧ください。内容を確認していただく際、議事録のピンク色の付箋のページと同じ色の付箋の調査報告で使った総括のページを確認してください。答申に、顕著な特徴には○、最も顕著な特

徴は◎をつけております。このように読み比べていただき、内容の整合性についてご確認ください。次に、答申の青色の付箋をご覧ください。みなさんから出していただいた意見は●にしております。同じ青色の付箋の議事録を見てください。2つの資料をもとに、整合性がとれているかご確認ください、評価集計表とを確認し、答申の内容と結果にねじれがないかも合わせてご確認ください。

なお、これまで意見の少ない種目、得点が高いにもかかわらず意見が少ない種目、点数が同点及び僅差の種目につきましては、積極的に意見を出してください。よろしく願いいたします。また、二次元コードのみを判断基準にすることのないよう留意してください。私からは、以上です。

小川会長：今、説明がありましたように、資料を見比べていただき、4つの資料（議事録、評価の集計表、総括、答申）を種目ごとに確認していきたいと思います。レジュメの枠の中に分担を割り振っていますので、グループごとに答申の内容について確認していただき、さらに付記する意見があれば、その意見も出していくということで、これから作業していただくようになります。見ていただいて、ここはもっとこういう意見があったなということがあれば、遠慮なく出していただけたらと思います。それでは、これから約15分程度時間をとりますので、第1部について各グループで確認をしてください。その後、意見の集約をしていこうと思いますので、よろしく願いします。それでは、14：00まで意見を出し合ってください。よろしく願いします。その後、種目ごとに出てきた意見を出し合いたいと思います。

（答申の内容、確認）

小川会長：それでは、まず1部の教科について見ていただいた部分で、意見等を出していただけたらと思います。

小川会長：数学について、答申案の22ページをご覧ください。特徴、最も顕著な特徴、意見を議事録等の資料と照らし合わせて、整合について取れているという話をしました。さらに、付け加えていきたい意見があります。東京書籍につきまして、調査員からの報告の中で特徴がありました課題発見解決をしていくための見通しとして、各単元の最初に問題が提示してあり、その問題についてどこをポイントにつかんだらよいか、解決の見通しはどうしたらよいか、問題を具体的にどうやって解決したらよいか、さらに理解を深めるためにはどうしたらよいかというような、解決する時に活用できる汎用的な型が示されているという特徴があることが、二人の話の中で出ましたので、意見として生かしたいと考えます。委員の方々も、ご意見等がありましたら、お願いします。

木谷委員：議事録のどのあたりですか。

小川会長：資料3議事録の中ほどくらいにあります。13ページ目です。議事録を見てい

ただいて、意見として答申に付記した方が良いというのがありましたら、お出してください。数学ではそのほか、行廣委員が出してくださったご意見で学校図書のノートの使い方と、私が出しました日本文教出版の既習事項を想起していくのが良いという意見等が入っています。その他いかがでしょうか。

小川会長：なければ、次の教科用図書に移ります。国語についてお願いします。

木谷委員：国語につきましては、評価をまとめたものについては1枚目、答申は7ページ、議事録は資料3の付箋が貼ってあるところになります。まず、特徴については、総括と照合しましたけれども、特に誤りも矛盾もありませんでした。意見については、東京書籍で2つ、光村図書で3つあり、議事録と照合しましたが、矛盾なくきちんと整合されています。その他の意見で、答申から漏れていないか確認しましたが、ここにあげられているもの以外につきましては、協議の中でみなさんから意見を出されることがありませんでした。よって、答申につきましては、この状態できちんと整合性がとれていると確認したところです。以上です。

小川会長：今見ていただいた中で、整合性がとれているという報告がありました。みなさまから、他に意見がありましたらお願いします。なければ、国語については終わります。

小川会長：続きまして、社会の歴史的分野について、お願いします。

行廣委員：評価については4ページ目になります。議事録は、7月17日の31ページからです。調査研究報告は、9枚目になります。答申は、14ページです。歴史的分野の確認をしましたが、特徴的なところについて、議事録と答申と見比べてみましたが、整合性がありました。あわせて評価もみると、特徴的なところと整合性がとれていました。意見として、小中の学習のつながりを意識できるという文言が東京書籍の一つ目の意見としてありますが、小中一貫教育の視点として捉えていただければと思います。また、答申の15ページに「二次元コードの活用」とありますが、議事録には「タブレット端末を持っていれば」とあるので、そこを追記できたらよいと思います。よって、「タブレット端末の使用が可能になった場合」を追記して頂ければと思います。

小川会長：歴史的分野について確認していただきました。議事録等を見て、意見や付記してほしいものがあればお願いします

小川会長：それでは歴史分野については終了します。続いて、英語について、お願いします。

伊藤委員：答申は40ページになります。特徴ですが、総括と比べましたが、特徴及び最も顕著な特徴について整合性がとれていました。議事録は27ページからですが、意見等についても、議事録にあるものが、答申にしっかりと反映されていると思います。

小川委員：他の委員から付け加えの意見等ありましたらお願いします。

木谷委員：意見の数について、6社の中で東京書籍が評価の点数が高い結果ではありますが、東京書籍は意見が5つあります。数として多く、顕著だと思うのですが、その辺はよいのでしょうか。

小川委員：東京書籍の教科用図書に顕著な点が見られたということだと思います。評価点にも表れていると思います。特に、内容の構成・配列・分量の小学校からの接続を図った構成・配列の部分について、東京書籍の点が高くなっており、東京書籍の意見にもその部分が出ています。それが意見としては、多かったのだと思います。

木谷委員：良い意味での特徴がみられたということですね。

小川会長：他にいかがでしょうか。今のように疑問点でも問い直しでも構いませんので出して頂ければと思います。

小川会長：よろしいでしょうか。ではここで10分間、休憩を取ります。

小川会長：それでは、会を再開します。第2部の担当種目の答申内容を確認してください。

(答申の内容、確認)

小川会長：それでは、理科についての意見をお願いします。

小寺副会長：答申25、26、27ページ。各発行者の特徴と最も顕著な特徴の部分については、問題なく整理されています。意見についても、議事録の内容と一致しています。東京書籍の意見が4つありますが、内容的にどちらかというと学習を深めるというより、興味の関心意欲を引き付けることがメインに記載されていますので、学習の過程等を重要視するということからは、少し離れているところが気になります。

小川会長：理科につきまして、追加のご意見やご質問等を出していただければと思います。

木谷委員：議事録はどこになりますか。

小川会長：17日の議事録8ページのあたりになります。

小寺副会長：評価についてですが、東京書籍と啓林館では得点に差があります。東京書籍が高いです。観点の主体的に取り組む工夫は、啓林館が高いです。あとのところは、平均

して東京書籍が高いです。啓林館は低いところが数か所見られると思います。

小川会長：意見として議事録の中の各委員さんが言われたところを整合するように載せているのですが、もう少し意図が伝わるように修正してほしいというところも言っていただければと思います。

木谷委員：東京書籍の意見の4つ目、イラスト中心でという内容は、どこに出てきますか。

小川会長：11ページの2段落目の行廣委員の言った意見の最後のところになります。

木谷委員：行廣委員は教科書全般のことをおっしゃったのか、どこかのポイントについて言われたのでしょうか。

小川会長：行廣委員どうですか。

行廣委員：科学的な思考の流れの中で、課題発見・仮説・検証・観察実験・振り返りという中で、イラストの吹き出しがたくさん使われているなと思いました。

小寺副会長：単に課題を設定して仮説を立てて、実験をして実験結果をまとめて考察して、またまとめをするというあたりが、文字だけになっていると抵抗があります。イラストを入れて吹き出しで整理をしていると子供たちには親しみやすいです。イラストが有効に活用されているというイメージがあります。

木谷委員：イラストの使い方が効果的とか有効に使われているということであれば、意をくんでいるのかなと思います。答申にイラスト中心でわかりやすいとだけ書かれてしまうと、教科書全体がイラストで話が進んでいるような誤解になると思います。

小寺副会長：イラストが有効に活用されているという表現が適切です。

木谷委員：その方が、実態に近いと感じました。

小川会長：答申の25ページ一番下の意見ですけれども、東京書籍2年生の254ページ、255ページのように問題発見、仮説というように、課題発見解決学習をしていく中でポイントになるようなところを、イラストの中の吹き出しで分かりやすく、子どもが読み取ることができるというような意見に修正するというところでよろしいでしょうか。

委員：はい。

小川会長：今のは東京書籍でしたが、他社のところの意見も意図が伝わるように表現を修正してみてはどうかというようなものがあれば、出してください。

小川会長：よろしいでしょうか。それでは、木谷委員さん、道徳についてお願いします。

木谷委員：評価表につきましては、最後のページです。答申につきましては、43ページ。議事録が17日金曜日の16ページを開いてください。それぞれの特徴、最も顕著な特徴については、議事録及び調査研究報告書と照合しまして、誤りなく整合しております。意見の部分については、1点踏まえたかどうかというところがあります。答申44ページを開いてください。日本文教出版の意見が1つ、別冊のことについて、テーマに沿って振り返りがしやすくなっているというところがあります。別冊以外にも、日本文教出版の特徴の一つとして、議事録18ページ、中ほどあたり、第1～5の観点の説明があり、社会に開かれた教育課程の視点においては、地域の歴史から未来につなげていくために郷土との向き合い方を考えさせるようになっています。全国各地の魅力的な題材の教材がコラム化されており、生徒が興味を持って学習できるように工夫されていました。その次のところですが、生徒が自分たちの地域の魅力を発見し、発展に尽くそうとする意欲が育めるように配慮されているというのがあがってました。ここに直接質問等があったわけではないのですが、21ページで中ほど、行廣委員のご発言の3行目のところに「社会に開かれた教育課程」に注目し見ていったところ、日本文教出版や光村図書、教育出版、学研はより「地球の未来に繋げていく」という言葉や「自分の生活につなげられる」「地域の未来・発展・社会貢献」といった言葉が出てきています。今はこのような力が求められているので、日本文教出版については、別冊の部分だけについて意見があったわけではないということをお野委員と確認をしました。18ページに生徒が自分たちの地域の魅力を発見し、発展に尽くそうとする意欲が育めるように配慮されているということをお内容面での意見として付記したらどうかと思いました。審議いただければと思います。

小川会長：今出された点ですが、調査委員の報告や行廣委員のご意見から、総合すると先ほどの意見を付記した方がよいのではないかと出ましたが、よろしいでしょうか。反対等ありませんので、付記させていただきたいと思います。

小川会長：委員の皆様の評価の点数等を見て総合すると、日本文教出版に一定程度の評価が集まっていますので、日本文教出版に関わって、ご意見等いただけたらと思います。

小川会長：木谷委員、小野委員の出されたものと似ていますが、17日金曜日の議事録18ページの下のところを見ると、「日本文教出版の教科書で最も特徴的なのは、第4の観点でした。具体的には、教材の内容を理解させる工夫として、マークを示しているところです。目次及び教材名の右横、また別冊『道徳ノート』の教材名の右横にマークを使い、問題解決的な学習や体験的な学習を扱う教材を示しているということでした。」というような、調査委員の報告を受けているところですが、意見が重なってもかまわないと思いますので、このあたりでのご意見があれば、いかがでしょうか。

小川会長：ないようなので、道徳はこれで終わります。

小川会長：それでは続きまして、行廣委員、眞田委員の方から社会の公民的分野について意見をお願いします。

行廣委員：評価表は5ページ目になります。答申は18ページからになります。議事録は17日の資料の34ページから及び41ページからになります。議事録と答申及び評価表を照合したところ、整合が取れましたのでご報告いたします。それぞれの特徴のところ、意見が引き出されていると思います。追記ということではありませんが、18ページの東京書籍のところにある一つ目の意見に、「福山市神辺町が題材となっており」とあります。「府中市の子供にとって身近に感じることができる」となっていますが、何をという部分が分かりづらいので、「府中市の子供にとってまちづくりという政治参加を身近に感じることができる」という形にしていただければ、答申を見たときに分かりやすくなると思います。

小川会長：「まちづくりという政治参加を」という部分を追記してもよろしいでしょうか。

全委員：はい。

小川会長：その他はいかがでしょうか。それでは、なければ、次の教科用図書に移ります。

小川会長：続いて、高石委員、伊藤委員の方から社会の地理的分野についてお願いします。

伊藤委員：答申は11ページになります。議事録については17日の資料の28ページ及び39ページになります。評価については3枚目になります。特徴及び最も顕著な特徴については、調査報告書等と比較して整合性が取れています。また、意見についても、議事録と比較して全て反映されています。地理については、最も顕著な特徴が全て第5の観点に集まっていたと思います。どこも僅差でしたが、差をつけたのは、東京書籍の「探究的な学習の流れが明記されており、子供たちにとって主体的に学習に取り組むための工夫につながる」という部分です。それが意見にも反映していたので、適切に評価が出ていると考えています。

小川会長：それでは、他の委員さんから、ご意見や修正等ありましたらよろしく申し上げます。

木谷委員：答申の13ページにある日本文教出版の意見の一つ目のところについてです。「中四国の単元で、南海トラフ巨大地震を想定し、各地域で行っている防災対策を扱っており、このような防災教育の視点は大切である。」とありますが、教科書に対する意見として、後半部分「このような防災教育の視点は大切である。」は必要でしょうか。議事録の40ページを見たところ、行廣委員が、「このような防災教育の視点は必要だと思います。」というご発言があります。答申の方では、「このような防災教育の視点は大切である。」と

言葉が入れ替わっています。また、この発言は、日本文教出版に対する意見であるとは言えないのではないのでしょうか。

行廣委員：南海トラフを想定した防災教育は必要であるという意図で発言しました。

木谷委員：「このような」以降をとればどうでしょうか。「南海トラフ巨大地震を想定し、各地域で行っている防災対策を扱っている」という形にすればよいのではないのでしょうか。

行廣委員：そうですね。その方が分かりやすいです。

小川会長：それでは、後半の部分の「防災教育の視点は大切である。」は削除して、「各地域で行っている防災対策を扱っている」というご意見とします。

小川会長：その他、いかがでしょうか。ないようでしたら、地理分野については終わります。ではここで10分間、休憩を取ります。

それでは再開します。それぞれのペアで3部の担当教科の確認をお願いします。なお、時間は15分から20分をお願いします。

(答申の内容、確認)

小川会長：それでは、それぞれ協議したことについて報告をお願いします。まず、技術・家庭について、私と小寺副会長が行います。

小寺副会長：それでは、技術分野から報告を行います。答申は36ページで教科書会社が3社あります。議事録との整合性は問題ありませんでした。ですが、技術に関しては意見が東京書籍の1点のみとなっています。確かに議事録を読んでもこれ以外の意見を見つけることができませんでした。そこで、3社を再度確認してみると、東京書籍は4つの編で構成されていて、各編の冒頭にこれから習うことは理科のこういった単元と関わりがあるのかといったことを小学校・中学校を含めた関連性で示してありました。このような表記があると、カリキュラム・マネジメントという視点から見て有効であるといえるのではないかと思います。もうひとつ、教育図書については、A編、B編、C編、D編というように同じく4つの編で構成されており、各編の最後のまとめ部分に、学力の3要素である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の項目ごとに振り返り、まとめをすることができるページが設定されていました。このような点は、生徒にとっても頭の中を整理がしやすいのではないかと思います。また、編が終わった後の確認という意味でも良いのではないかと思います。なお、開隆堂は特徴的なところがないので、意見を出すのは難しいかなと思いました。また、評価で言うと、東京書籍、教育図書が高い評価を得ていますので、このような点から見ても先ほどの意見を答申に追記する必要があるのではないかと思います。

次に、家庭科についてです。答申は38ページです。この答申の内容は報告、議事録との間で整合性があり、問題なく整理されていると思います。ですが、1つ気になる点として、東京書籍の「言語活動を取り入れた学習の示し方は5種類と少ないが、自分たちの活動の視点を見つけていくという点においては、興味関心を持って取り組むことができる」という意見と、開隆堂の「言語活動を取り入れた学習の示し方は4種類と少ないが、自分たちで活動の視点を見つけていくという点においては、興味関心を持って取り組むことができる。」という意見がありますが、教育図書「分類が多い方が子供の意欲・思考を引き出すのに良い」という意見と相反しています。どちらが良い、悪いということではないのですが少し気になりました。ですが、どちらも意見として出た内容なので、このままで良いのかなと思いました。

小川会長：それではまず、技術分野についてですが、意見の追記として東京書籍では小学校や他教科との関連の記述があり、カリキュラム・マネジメント等を有効に進めやすいといった内容を追記することによってよろしいでしょうか。

全委員：はい。

小川会長：次に教育図書の方は、学力の3要素の視点で振り返りやまとめをするようなページが設けてあり、学習の整理がしやすいといった追記をするということによってよろしいでしょうか。

全委員：はい。

小川会長：ありがとうございます。そのほか、技術分野に関わりまして何かご意見がありましたらお願いします。

小川会長：それでは、続いて家庭分野の意見3社を見比べてみてください。この部分は、議事録でいうと、8ページです。質問した第5の観点の言語活動の充実について、東京書籍は5種類、開隆堂4種類と数は少ないですが学習の示し方としてはおもしろいという意見があり、この部分が各教科書会社の特徴として整理されています。よって、先ほど小寺副会長が指摘されたような記載となっているのですが、このままでよろしいでしょうか。行廣委員はどうですか。意味は通じていますでしょうか。

行廣委員：はい。

小川会長：それでは、載せたままにしておきます。そのほか、家庭分野の中でご意見がありましたらお願いします。

小川会長：なければ、続いて書写、音楽（器楽）について木谷委員、小野委員の方からお

願います。

小野委員：はじめに書写についてです。答申のページは9ページです。顕著な特徴については整合性がとれています。また、意見は13日の議事録の後ろから2ページに記載があります。意見についても、この議事録とおりにだったので問題はないと思います。書写は以上です。

小川会長：書写に関して意見がありましたら、願います。

小川会長：なければ、次に音楽（器楽）について願います。

小野委員：音楽（器楽）については、答申30ページです。こちら、最も顕著な特徴を確認したところ、間違いはありませんでした。また、意見については、13日の議事録、後ろから約11ページのところと照らし合わせましたが、選択できる幅が広がるという意味で主体的な学習につながるという記載もありますし、問題ありません。

小川会長：それでは、音楽のところを振り返ってもらって、ご意見等ありましたら願います。

木谷委員：評価表を見ていただくと、主体的に学習に取り組む工夫の2つの視点を見ると、2社間で7ポイント差があります。やはり、議事録にある意見の方をみても教育出版の方が色々な楽器が扱われているということ、子供が選択できることで主体的な学習につながるという意見が出されており、これは評価の方とも整合性がきちんと取れているというふうに話をしました。

小川会長：それでは、音楽（器楽）はよろしいでしょうか。

小川会長：では続きまして、美術と音楽（一般）について、行廣委員、眞田委員願います。

行廣委員：まずは美術からです。答申は32ページ、議事録は17日の11ページです。議事録を見ながら、答申の確認を行いました。最も顕著な特徴、意見ともに問題ありませんでした。特に光村図書の意見が3点と多く、他の2社については1点となっていますが適正であると考えております。また、評価表と合わせて見ていただけたらと思います。以上です。

小川会長：美術の答申と議事録、評価表等を各委員で見ていただいて、意見や修正、追加等があれば願います。

小川会長：よろしいでしょうか。それでは、次に音楽（一般）について願います。

行廣委員：答申は28ページ、議事録は13日の18枚目です。特徴や意見については整合性がとれていたように思います。また、議事録の同じページにある調査員の発言にもあるように、2社ともよく作られているということで、評価も僅差になっています。答申の内容に問題は無かったと思います。

小川会長：その他、音楽（一般）に関してご意見がありましたらお願いします。

小川会長：音楽（一般）に関して、その他無いようなので続いて地図、保健体育について高石委員、伊藤委員をお願いします。

伊藤委員：ではまず、地図についてです。答申は21ページ、評価表は6枚目、議事録は17日の37ページと43ページです。特徴及び、最も顕著な特徴については整合性がとれていると思います。意見に関しては3点ほど、ご確認をいただきたいと思います。まず1点目ですが、東京書籍の最後の意見についてです。「色が落ち着いており、高等学校地図帳の色彩に近い」という記載がありますが、これだけを見ると良い意味なのか、悪い意味なのか少し把握がしづらかったです。議事録の44ページを見ると、行廣委員は「色が落ち着きすぎているように思う」とどちらかという否定的な意味で捉えることのできる発言をされています。ですが、答申ではどちらの意味にも取ることができるので、削除しても良いのではないかという意見が出ました。これに関連して2点目に帝国書院の「色が華やかで、小学校の色彩に近い」というところを、先ほどの議事録44ページの行廣委員の発言を参考に「色が華やかで、小学校の色彩に近く、中学校1年生に進級した時に手に取って見やすい」と修正するのはいかがでしょうか。あともう1点、帝国書院の4つ目の意見に「地図の活用を段階的に進めることができる」という文言が、これでは分かりにくいと感じました。議事録の44ページの高石委員の発言を見ると、「地図が非常にシンプルで子供にとって見やすい」ということを伝えたかったように捉えることができます。よって、ここを「シンプルな表記で、地図として活用しやすい」という文言にまとめてもらえればと思います。以上です。

小川会長：それでは、地図に関して修正の提案がありました。まず、帝国書院の3つ目の意見について削除してはどうかという提案だったのですが、その点についていかがでしょうか。

木谷委員：良いと思います。

小川会長：議事録44ページの行廣委員のご意見だったのですが、行廣委員よろしいでしょうか。

行廣委員：はい。帝国書院との比較をする中での発言なので、帝国書院の意見が残れば良いかなと考えております。

小川会長：分かりました。それでは、東京書籍の3つ目の意見については、削除するということにします。

木谷委員：先ほど話題になりました、帝国書院の特色に色が華やかという表現がありましたが、華やかだと付加的に思うのですが。色が鮮やかの方がより良いのではないかと思います。

小川会長：それでは続いて、帝国書院の意見について2点修正がありました。まず、下から2つ目の意見については、華やかを鮮やかに修正し、中学校1年生に進級した時に見やすいという点を付け加えるということでしたが、いかがでしょうか。

全委員：良いと思います。

小川会長：それでは先ほどのように修正をします。もうひとつの修正点として、4つ目の意見については、地図として活用しやすいということを高石委員は伝えたかったということで、そのように修正してもよろしいでしょうか。

高石委員：これは、東京書籍の情報量が多いという点と対比していますので、シンプルという表現でいいと思います。

小川会長：それでは、そのように修正をさせていただきます。そのほか、地図に関わっていかがでしょうか。

小川会長：無いようなので、最後に保健体育についてお願いします。

伊藤委員：答申は34ページ、評価表は後ろから5枚目、議事録は17日の2ページです。特徴及び最も顕著な特徴、意見については整合性がとれています。ここについても意見に関して2点提案があります。答申35ページの大修館書店のところに「いろいろな資料をいろいろな視点から掲載されている」とあります。議事録6ページの木谷委員の発言の中で、「どこの教科書会社も充実している」とあります。ここは確かに大修館書店の第3の観点が題材になっているのですが、どこの教科書会社も充実しているということなので、ここは削除しても良いと思いました。2つ目に、学研の「1時間の流れが示されており、授業づくりの参考になる」という意見についてですが、これも議事録6ページの行廣委員の発言を見ると、積極的に評価している意見ではないというように捉えました。あれば参考になる、なくてもそれほど支障がないとのことなので、これも削除しても良いと思いました。以上です。

小川会長：2点ほど修正の提案がありました。大修館書店の意見については、どの教科書会社にも言われた意見ということで、削除しても良いのではないかという意見だったので

すが、木谷委員いかがでしょうか。

木谷委員：よろしいと思います。

小川会長：それでは、大修館書店に限った意見ではないということで、削除することにします。続いて学研についての意見ですが、行廣委員の「1時間の流れが示されている点について、流れが示されることで授業が硬直化しないか、授業が予定どおり進まなかったときにどうするか心配でした」という発言を意見として挙げるのはどうかということだったので、行廣委員はいかがでしょうか。

行廣委員：これも、削除しても良いと思いました。

小川会長：それでは、保健体育に関して何か意見や修正等があればお願いします。

小川会長：長時間に渡って審議いただきましてありがとうございました。協議全体を通して、何か気になる点がありましたら、お願いします。ないようなので、事務局からお願いします。

事務局：失礼します。答申の40ページ、議事録の28ページをご覧ください。東京書籍の最後の意見に「探求リストが見やすい。」とありますが、これは間違いで、木谷委員に確認すると単語リストということだったので、修正をお願いします。

小川会長：分かりました。ここは、木谷委員と確認済みということだったので、皆さん修正をお願いします。その他全体を通して何かありますか。無いようなので、本日意見をいただいたことをもとに答申を訂正し、教育長に答申を出し、報告させていただきます。委員の皆さん、大変お忙しい中、時間を取っていただきましてありがとうございました。府中市の子供たちが使う教科用図書ですので、子供たちのこれからにつながる重要なものを協議していただいたとっております。本当に大切な時間をいただきましてありがとうございました。

府中市教科用図書採択地区選定委員会

会 長 _____ 印

副 会 長 _____ 印

選定委員 _____ 印